

真に豊かな社会を考える
～ 混迷する時代を読み解き、共に
未来を創るために～

斎藤幸平

大阪市立大学

2021年11月6日

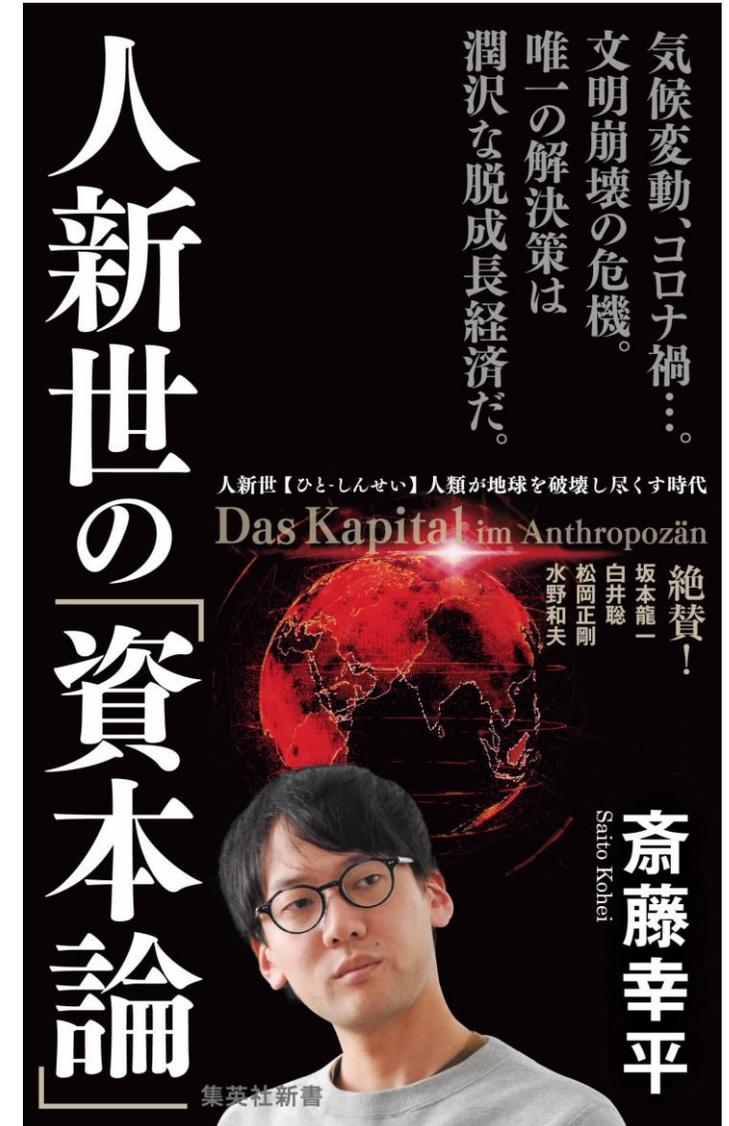
「グレート・リセット」

- ポストコロナの「ニューノーマル」がどうなるかの分岐点
→ 資本主義の2つの危機 = 気候崩壊 + 経済危機
- I. IPCC第六次報告書
 - ① 人類が間違いなく気候変動を引き起こしている
 - ② 1.5度は超えてしまう
 - ③ 大西洋・永久凍土、不可逆的变化
- **慢性的緊急事態**
- II. 経済格差も深刻化 = コロナ禍で資産を増やす超富裕層
- 単なる経済のV字回復 = 破局への道
- **別の道**を模索する必要性 = 「グレート・リセット」 (ダボス会議)

**持続可能な社会のために
何をしていますか？**

「SDG s は大衆のアヘンである！」

- これらではまったく意味がない！
- それどころか「有害」でさえある
- 自分はなにかを「小さなアクション」やっているとすることで、今本当に必要とされているもっと大胆なアクションを起こさなくなってしまう
- 企業PR、ブランド化
- 消費者としての選択で満足してしまっている
=今まで通りの生活を続けるための「免罪符」。



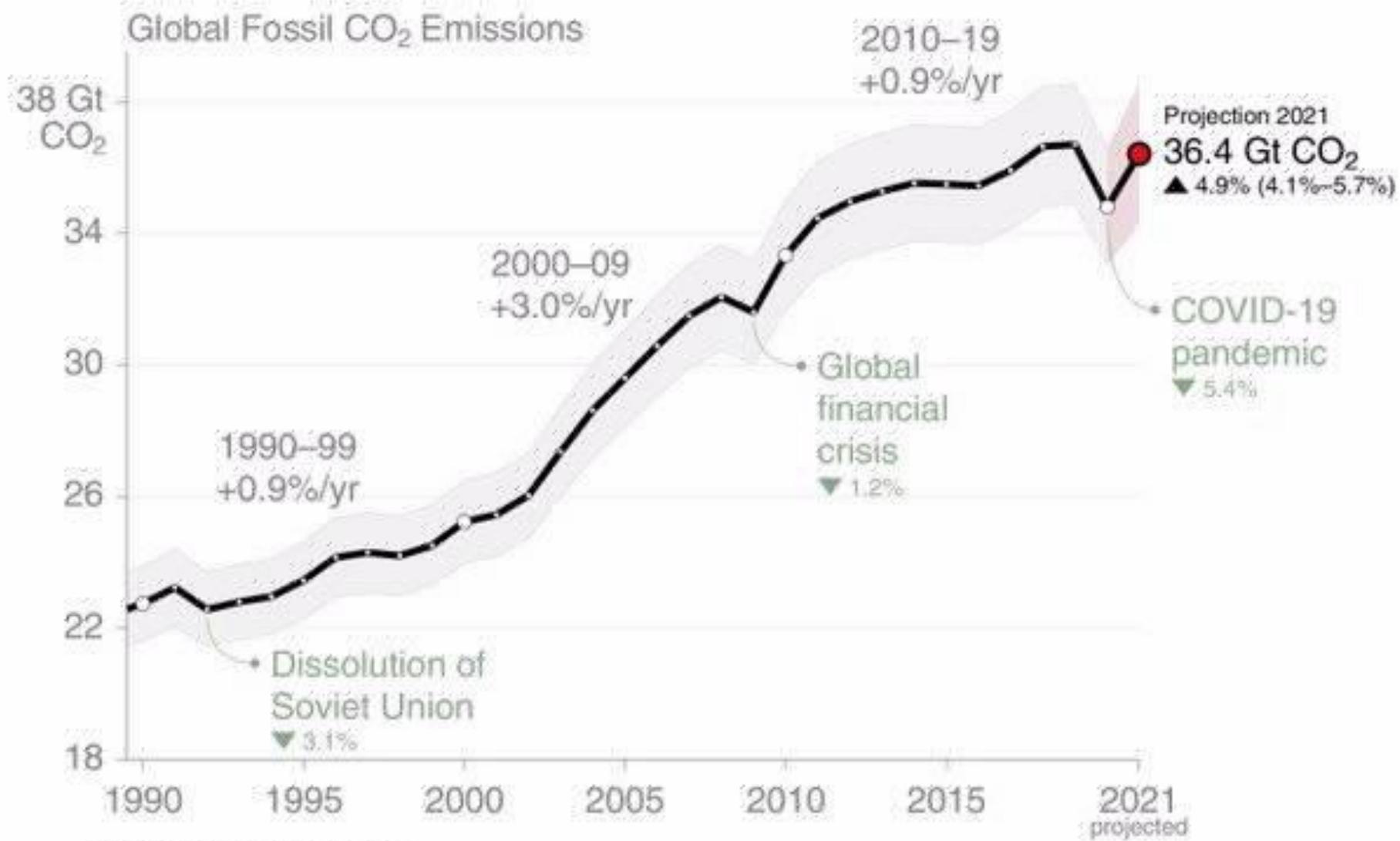


ハンバーガーで SDGs

なぜ、マックのハンバーガーを食べると「サステナブル」なのか

SDGs バブル

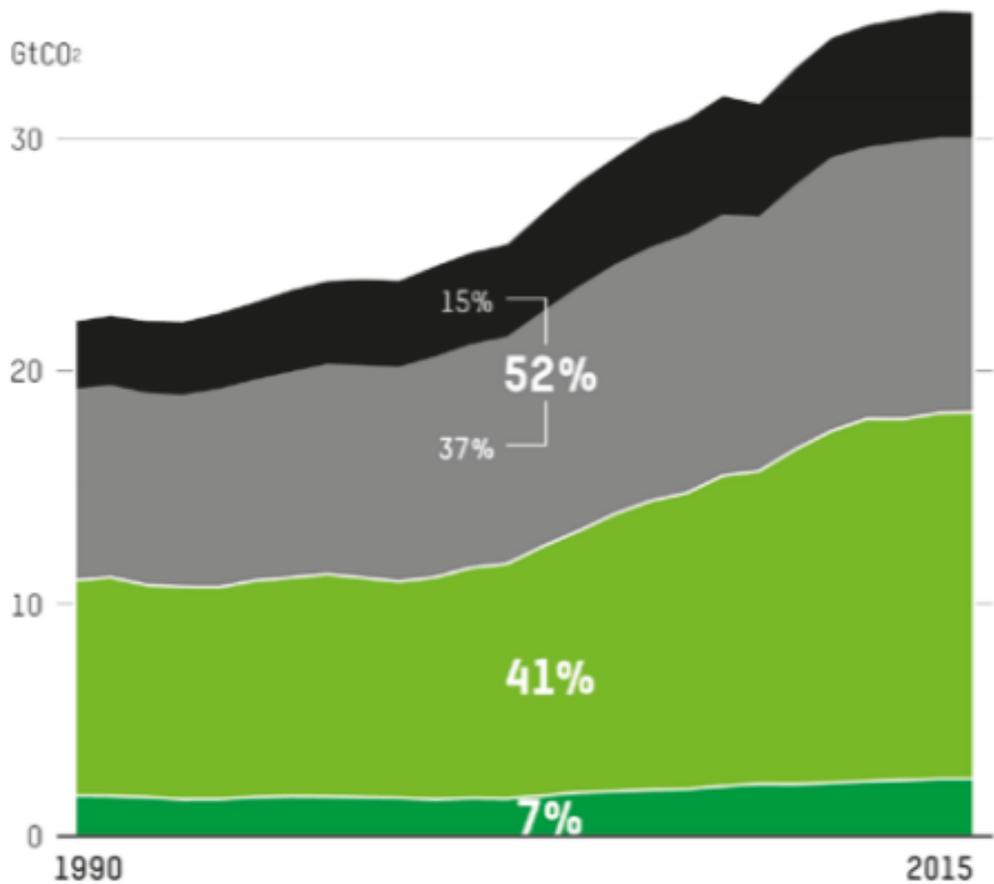
- 100年後（30年後）を見据えた投資として十分か？
- 小手先になっていないか？
- 大量生産・大量消費・大量廃棄といった根本的な問題に切り込まない（営業時間短縮、セールを止める）
→ 「なぜ踏み込ま（め）ないのか？」
= 利益を犠牲にしないといけないから
- 競争があるなかで、自社だけ利益を犠牲にすることはできない
- 結局、金儲けの範囲内でしか問題解決に動けない
- それどころか、「これからはESGと投資」「SDGsでビジネスチャンス●●億円」というように金儲けの「手段」に変えようとしてしまう・・・



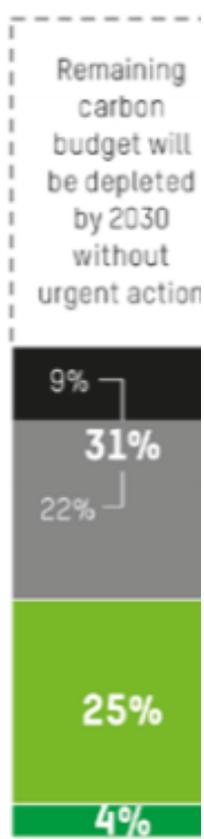
Share of global population



Share of cumulative emissions 1990–2015



Share of global carbon budget for 1.5°C



排出量グラフ

10%の私たちは幸せか？

- そもそも働き過ぎで、余暇は存在しない。
- コンビニの弁当やカップラーメン、牛丼。
- ストレスの発散と言えば、飲み会や高濃度のアルコール飲料
オンライン・ショッピングやスマホの課金ゲーム。
- 約六分の一の世帯は貯金がない（20代、30代は約半分）。
- イジメ、自殺
- 経済成長と出世を目指して、みんなが必死に頑張った結果。
- 生活の目的と手段の転倒（「働くために生きる」）
- その犠牲となるのが、人間と自然環境

豊かな社会という「幻想」

- 30年もの間、このような改革を続けていると、人々はもう薄々気が付いている。もう、私たちの社会は、かつてのような経済成長をすることはできないのだ、と。
- これ以上、必死になって構造改革や量的緩和を進めたり、民営化や規制緩和を推進したりしたところで、人々は、むしろ貧しくなり、生活の質は悪化していくだけ。
- 一度立ち止まり、落ち着いて考えると、ここには一つおかしいことがあるのに気が付く。日本は世界有数のGDPを誇るような「経済大国」で、テレビをつければ「日本の技術すごい」、「日本人すごい」、「日本の文化すごい」と謳われているが、現実の私たちの生活は、とても「貧しい」。

人工的希少性

- なぜか貧しいのか？
- 資本主義は囲い込みによって、コモンズを解体していく
- 潤沢なものは価値をもたない（空気）
- それまで潤沢だったものを人工的に希少にすることが目指されるように
- 商品化 = 価値増殖のチャンス
- ところが、商品化によって貨幣をもたないものはアクセスを奪われる（森林、水、農地）
- また、希少性を作り出すために破壊・浪費も横行
- 私財の増加が公富の減少を伴う（ローダデールのパラドックス）

「価値と使用価値の対立」

- 富と商品の対立 = 富は狭隘化し、しばしば破壊さえされる
 - ありとあらゆるものが商品化されていく
= 市場に任せた方が、競争が行われ、効率がいい
 - その極地が「新自由主義」 = 「民営化」 (privatization)
 - 「民営化」というと民主的な方法で営まれるようになったかのようだが、
実際には、アクセスが特定の一個人 (企業) によって制限される = コモンズの囲い込み
 - 市場は民主的でない = 貨幣を持っている人しかアクセスできない
 - 儲からないものはコストカット、予算カット、人員削減
= 切り詰められ、サービス縮小し、質も下がる
- 多くの人々の生活は、より不安定になり、貧しくなり、生活の質も悪化
- ますます労働へと駆り立てられるように

コモンとしての地球

- 「資本主義的生産様式は、それが大中心地に集積させる都市人口がますます優勢になるに従って、・・・人間と土地とのあいだの物質代謝を、すなわち、人間により食料および衣料の形態で消費された土地成分の土地への回帰を、したがって持続的な土地肥沃度の永久的自然条件を攪乱する。」
- 「より高度な経済的社会構成体の立場から見れば、個々人による地球の私的所有は、ある人間による他の人間の私的所有と同様にまったくばかげたものとして現れるだろう。一つの社会全体でさえ、一つの国でさえ、いな、同時代のすべての社会を一緒にしたものでさえ、地球の所有者ではない。それらは地球の占有者、地球の用益者にすぎないのであり、よき家長者たちとして、これを改良して次の世代に遺さなければならないのである。」

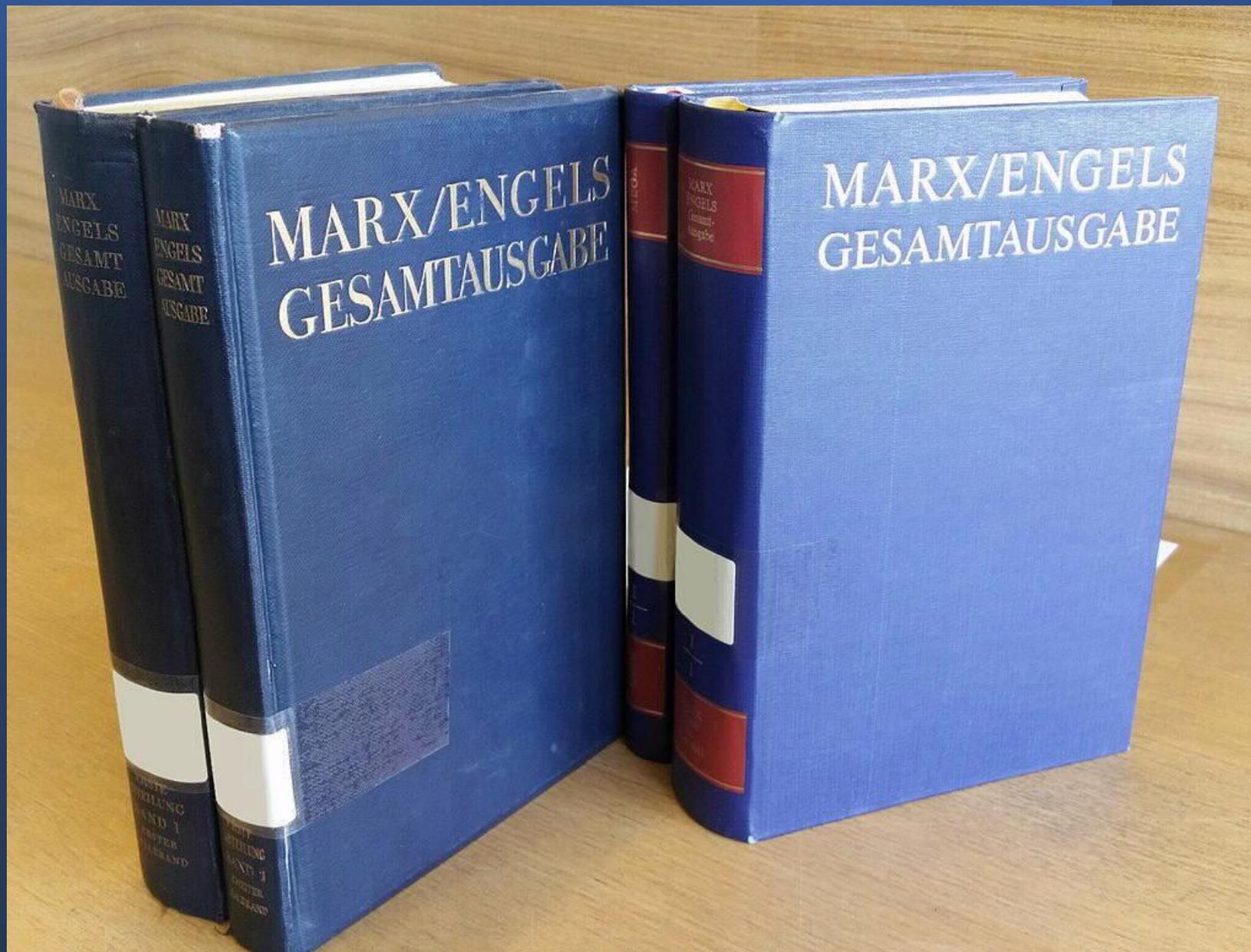
コモンとしての知・図書館

- 知は本来誰にでも開かれているもの
 - 知で金儲けをするためには、独占の必要性（特許、アクセス権の制限etc） = ジャーナル
 - 独占しても発展することはできない
 - むしろ、歴史的蓄積や開かれた対話が重要
 - 図書館はコモンとしての知の基盤
- 私の研究の基礎

マルクス・エンゲルス全集

- *Marx-Engels-Gesamtausgabe* (MEGA)
- 全120巻以上
- 第四部にマルクスの研究ノートが含まれる
- 初めて刊行される資料も
- 日本の研究チームも参加





国際社会史研究所 (IISG)

- マルクス・エンゲルスの草稿が保管されているアーカイブ

4)
└ Briefe von Eleanor Marx (G 5-91)
└ Briefe an Eleanor Marx (G 92-185)

 Cite this  Email this  Export Record  Add to Favorites  Share

 Add to Selected Items

Karl Marx / Friedrich Engels Papers

Collection Summary | Content List | Content and Context | Access and Use | Subjects ▾

a. manuskripte von karl marx (a 1-115)

Verzeichnet ist der Originalbestand des IISG und diejenigen Manuskripte, von denen das IISG Kopien erwerben konnte. Texte, die lediglich nach der Publikation bekannt waren, sind dann berücksichtigt, wenn sie in die damals laufenden Werkausgaben nicht aufgenommen (Nr. 41, 56, 91, 113) oder erst nach Abschluß der entsprechenden Bände der russischen Ausgabe erstmals (und in der Originalsprache) publiziert wurden (Nr. 55, 87, 95, 108, 112). - Dagegen sind die ökonomischen Manuskripte 1857/58 und 1861-1863 nur mit den im IISG vorhandenen Handschriften im Verzeichnis berücksichtigt.

Erfaßt sind ausgearbeitete Manuskripte, Konzepte, Entwürfe und Notizen; derartige Texte, die sich in den Exzerptheften befinden, sind hier mit eigener Ordnungsnummer berücksichtigt, von der Beschreibung des Manuskripts in Teil A wird auf das jeweilige Exzerptheft in Teil B mit dessen Signatur verwiesen. Das Verzeichnis folgt grundsätzlich der Chronologie der Abfassung. Diese Chronologie ist an einer Stelle unterbrochen, um sachliche Zusammenhänge zu berücksichtigen: Die ökonomischen Manuskripte aus den Jahren 1857-1880 sind unter den Nrn. 48-81 in Anlehnung an die Ausgaben der Grundrisse und von Kapital I-III gruppiert und dann in der Reihenfolge der Entstehung angeordnet.

-Hinweis-:

Inzwischen stehen für die Benutzung im IISG die ökonomischen Manuskripte 1857/58 vollständig als

Similar items

-  **Karl Heinz Papers**
by: Heinz, Karl
-  **Karl Kuntze Papers**
by: Kuntze, Karl
-  **Karl Fritz Max Müller Papers**
by: Müller, Karl Fritz Max
-  **Reinhard Opitz Papers**
by: Opitz, Reinhard
-  **Mathilde Franziska Anneke Papers**
by: Anneke, Mathilde Franziska

CONTENTS



[Heft LIII], 1851 , deutsch, englisch.

MORE INFORMATION

About the item

Dates

1851

Physical description

58 S

Part of

Karl Marx / Friedrich Engels Papers

Inventory number

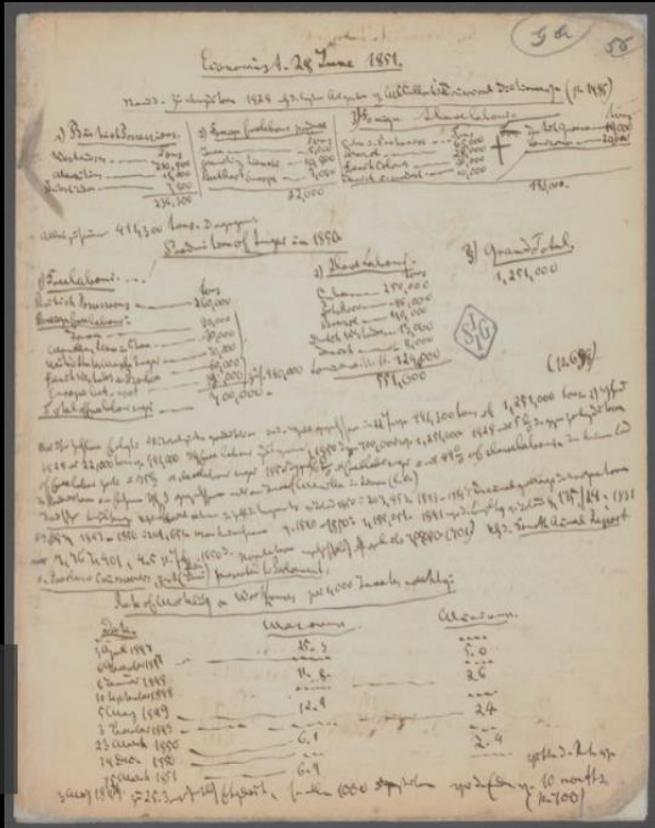
B_59

Refer to this record

https://hdl.handle.net/10622/ARCH00860.B_59

Refer to this item

https://hdl.handle.net/10622/ARCH00860.B_59



Collection International Institute of Social History (Amsterdam)



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The document appears to be a list or a series of entries, with some numbers visible, such as (123, 4) and (126). The text is written in a single column, with some lines starting with a small mark resembling a comma or a dash. The overall appearance is that of an old, well-used manuscript.

未完の『資本論』

- ノートを編集する中で見えてきたこと
- これまで研究者たちもノートを検討してこなかった（刊行されてすらいない）
- 『資本論』は未刊である = エンゲルスが死後に編集
- 20世紀のマルクス主義はこのエンゲルス版に依拠
- マルクスは『資本論』を完成させるために必死に勉強した
→ その理論的飛躍が記録されているのがノート

MEGA II/1.1 Ökonomische Texte von I

Die Marx-Engels-Gesamtausgabe (MEGA) ist die Edition der Veröffentlichungen, der Briefwechsels von Karl Marx und Friedrich Engels bei De Gruyter (Berlin). Die MEGA präsentiert die II. Abteilung. "Das werden alle Textfassungen des ökonomischen Marx publiziert, darunter auch umfangreiche unveröffentlichte Manuskripte.

Für die digitale Ausgabe der MEGA werden die II. Abteilung und Teile der Editorischen Projekte der Telota-Arbeitsgruppe der Akademievorhabens MEGA mit Unterstützung der Forschergruppe (gefördert von der Japan Society for Science, Projektnr. 23243035) sukzessive. Damit werden zum einen die "Grundrisse" online zugänglich gemacht, zahlreichen Manuskript-, Redaktionsentwürfen und ersten und zweiten Buch des "Kapital".

Inhalt



Apparat



den erstren stützt. Beide begreifen, daß der Gegensatz gegen die politische Oekonomie – Socialismus und Communismus – seine theoretische Voraussetzung in den Werken der klassischen Oekonomie selbst findet, speziell in Ricardo, der als ihr vollendetster und letzter Ausdruck betrachtet werden muß. Beide finden es daher nöthig, den theoretischen Ausdruck, den die bürgerliche Gesellschaft in der modernen Oekonomie geschichtlich gewonnen hat, als Mißverständniß anzugreifen und die Harmonie der Productionsverhältnisse da zu beweisen, wo die klassischen Oekonomen naiv ihren Antagonismus zeichneten. Die durchaus verschiedene, selbst widersprechende nationale Umgebung, aus der heraus beide schreiben, treibt sie nichtsdestoweniger zu denselben Bestrebungen. Carey ist der einzige originelle Oekonom der Nordamerikaner. Einem Land gehörig, wo die bürgerliche Gesellschaft nicht auf der Grundlage des Feudalwesens sich entwickelt, sondern von sich selbst begonnen hat; wo sie nicht als das überlebende Resultat einer jahrhundertalten Bewegung erscheint, sondern als der Ausgangspunkt einer neuen Bewegung; wo der Staat, im Unterschied von allen früheren nationalen Gestaltungen, von vorn herein der bürgerlichen Gesellschaft, deren Production untergeordnet war und nie die Präention

新自由主義

- 本を読まない人にとっての図書館、芝居を見ない人にとっての劇場、元気な人にとっての病院。健常者にとっての障害者。納税者にとっての生活保護。

→どれも「金食うばかりでメリットないもの」に見えてしまう

- 人々はすべてを損得で見て、判断するようになってしまった

→アトム化・競争社会

- 長きに渡る（スローな）知を無償で提供する図書館は時代に合わないものとみなされるように・・・

→郷土資料・古い本は要らないなんていう風に

ラディカルな潤沢さ

- Radical abundance
= ローダデールのパラドックスをひっくり返すことで回復される潤沢さ
- 私財を減らし、公富 = コモンを増やす
- 貨幣に依存しない豊かさ
- 単なる物質的な潤沢さ (= 消費主義) ではない = 協同的富の創出
- Communismの基礎はcommon
- 〈コモン〉とは? = 私有でも、国有でもない第三の道
- 私的所有や商品に溢れた社会から共同所有・脱商品化を目指す
- シェアして、自分たちで自治・管理する実践
→ そのような場としての図書館を (気候変動対策にもなる)

脱成長コミュニズム

- 仮に二酸化炭素が排出されなくなっても・・・
 - 経済成長のために40時間以上働く社会でいいのか？
 - 経済格差、広告まみれ、計画的陳腐化、競争社会
 - それでは意味がない！
 - 資本主義の下で失われている別の可能性がたくさんあるはず
 - もっと平等で、もっと自由で、もっと公正な社会
 - 家族との時間、趣味、読書、スポーツ、ハイキング、ボランティア
= 新しい快樂主義 (alternative hedonism)
- そんな世代がリーダーになるまであと10年？